

2025 年度（令和 7 度）学校評価報告書

1. 教育目標・重点目標

本校では以下に示した建学の精神及び教育方針に基づいて「社会から必要とされる学校づくり」「安心・尊敬・信頼の対象となり、信用され得る人物の育成」を目標に日々教育活動を行っております。その教育活動等の成果を検証し改善を行うことにより、生徒がより高い教育活動を享受できるよう望ましい学校運営の発展を目指し教育水準の向上を図ります。そのための具体策として、27 項目の重点目標・評価項目を設定し、教職員・保護者・生徒による三者の学校評価アンケートを実施いたしました。集計結果は別表のとおりです。内容を詳細に分析・検討し、次年度の重点目標・具体的取り組みを設定し、目標（Plan）－ 実行（Do）－ 評価（Check）－ 改善（Action）という PDCA サイクルに基づき継続的にその伸長・改善に取り組んでまいります。

《建学の精神》 徳・健・財、三拍子そろった姿でルールを守り、世の中のために尽くす人間となるために、勤勉努力する理想的な人物を育成する。

《教育方針》 勤勉と責任とを重んじ、自立の精神を養うと共に、明朗にして誠実、常に希望の中に幸福を見出し、社会の全てから「安心」と「尊敬」と「信頼」の対象となり、信用され得る人物を育成するため、仏教を中心とした宗教による教育を実施する。

《清風南海魂》 これらの精神を実現させるべく、清風南海魂を体得するための努力をする。
清風南海魂を体得するために、

- 第 1 正しい判断力を育成し、鋭い断行力を養うこと。
- 第 2 先祖伝来の宗教を中心に敬神崇祖の念を養い、信仰心を確立し、信念と不屈の精神力を身につけること。
- 第 3 常に節制を守り、体力の練磨向上を計り、徹底した精進努力をすること。
- 第 4 礼節を重んじ、父母を大切にし、先祖に感謝し、年長者や先生を尊敬すること。
- 第 5 素行を正しくして、常に正確な予算生活の実行者となること。
- 第 6 常に自利利他・福の神のコースを脱線せぬよう心がけ、^{いそ}急がず、^や息まずの心構えで勤勉努力を続けること。

2. 学校評価アンケート実施と集計

- (1) アンケート実施に当たっては、教職員・保護者・生徒ともに Google からのリンクによる端末回答とした。集計処理の全工程において守秘義務厳守として匿名性の担保に配慮した。
- (2) 評価項目の内容は、教職員・保護者・生徒の各評価を比較するため同一内容とした。ま

た、学校全体の状況を把握するため、個人ではなく学校全体の状況を問う形にした。

- (3) 評価項目は、「学校全体にかかわること」「授業にかかわること」「進路にかかわること」「生徒指導にかかわること」「特別活動にかかわること」「教育相談にかかわること」「環境美化・設備・健康管理にかかわること」「その他」の順に内容的にまとめて配列した。「その他」では、保護者への連絡、情報公開、対応および緊急事態発令時における保護者との連携・協力について問うた。
- (4) 評価基準は、①よくあてはまる ②ややあてはまる ③あまりあてはまらない ④全くあてはまらない の4段階とした。また、⑤判断できない(よく分からない)を設定して無記入の回答を避け、今後の評価項目設定の際の参考とすることとした。
- (5) 評価レベルとしては、評価基準の①②を肯定評価、③④を否定評価として課題の整理をした。肯定評価が60%以上の項目については、継続してさらに取組を強めていく。60%未満の項目については、その内容を分析し、改善・改革に向けての検討課題とする。

※ 評価基準の⑤については、その数値が、①②の肯定評価、③④の否定評価に影響を及ぼしていると思われる項目において分析の際に考慮することとした。

※ %は下1桁を四捨五入した結果、合計で100%にならないものもある。

- (6) アンケートの参加人数・参加率は次の通りであった。()内の数値は昨年度

教職員：対象人数 91(93)名 参加人数 89(93)名 回答率 98% (前年度 100%)

保護者： 1749(1738)名 1266(1213)名 72% (前年度 70%)

生徒： 1749(1738)名 1624(1612)名 93% (前年度 93%)

・達成・取組状況：参加率(回収率)に関しては、1週間の回答期間を設けた端末解答であったが、教職員は98%が参加、生徒は93%が参加した。保護者は全体で72%となっている。学年別では中1が81%と最も高く、中2は77%、中3は73%で、高校では高1が71%、高2は64%、高3では70%となっており、中学校の平均は77%、高校は68%であった。

・改善方策：次年度もこの方式で実施し、保護者の参加率を高めるよう心がける。

3. 学校評価：達成・取組状況及び今後の改善方策

(1) 全体について

- ① 全評価項目27項目の評価結果の平均は、①よくあてはまる ②ややあてはまる ③あまりあてはまらない ④全くあてはまらない ⑤よくわからないの順に、()内は昨年度

教職員 ① 39(35)% ② 46(48)% ③ 9(8)% ④ 1(1)% ⑤ 5(8)%

保護者 ① 43(42)% ② 38(39)% ③ 6(7)% ④ 1(1)% ⑤ 12(11)%

生徒 ① 22(37)% ② 45(43)% ③ 11(9)% ④ 4(3)% ⑤ 18(8)%

・教職員では①で微増しており、保護者ではほとんど変化がない。生徒では①が減少し、⑤判断できない(よく分からない)が増加している。わかりやすい具体的な教育活動を発信し、改善を図る必要がある。

- ② 全評価項目 27 項目の教職員・保護者・生徒の三者平均は、①よくあてはまる ②ややあてはまる ③あまりあてはまらない ④全くあてはまらない ⑤判断できない(よく分からない)の順に、
① 35% ② 43% ③ 9% ④ 2% ⑤ 12%

・達成・取組状況：4年間を総合的にみて、概ね同様の評価である。

① 35%→37%→35%→35% ② 46%→43%→48%→43% ③ 10%→8%→8%→9%

④ 2%→2%→1%→1% ⑤ 8%→10%→8%→12%

・改善方策：肯定評価に該当する②で5ポイント減少しており、⑤は増加しており、詳細に分析し、さらなる改善を図る必要がある。

- ③ 全評価項目 27 項目の①+②肯定評価－③+④否定評価－⑤判断できない、の平均は順に、
教職員 84%－10%－5%=69%(昨年度 66%) 保護者 81%－7%－12%=62%(昨年度 62%)
生徒 67%－14%－18%=35%(昨年度 60%)

であった。

・達成・取組状況：教職員・保護者で前年度より微増であるが、生徒については25ポイント昨年より下回っている。これは⑤判断できない(よく分からない)が増加したものによる結果である。

・改善方策としては、教員については、学校の方針に基づいたうえで、生徒の学習活動や諸行事の目的や意義について共通認識をもてるようにしていかななくてはならない。また、生徒に対しては、進路に関わることや対保護者に関わることなど、丁寧に発信していくことが必要であると思われる。

肯定評価①+②：教職員 81%→84%→83%→84% 保護者 84%→80%→81%→81%

生徒 76%→76%→80%→67%

- ④ 全評価項目 27 項目の肯定評価・否定評価・判断できない、の教職員・保護者・生徒の三者平均は、①+②肯定評価、③+④否定評価、⑤判断できない(よく分からない)の順に、

①+② 77.3% ③+④ 10.3% ⑤ 11.6%

・達成・取組状況：一昨年度→前年度→今年度の評価を比較してみた。

①+② 80.3%→80.0%→81.3%→77.3% ③+④ 11.7%→10.0%→9.7%→10.3%

⑤ 7.7%→10.0%→9%→11.6%

・改善方策：4年間でみると全て年度による差はあるが、全体としてはさほど変わらない結果となっている。しかしながら、詳細に分析しさらなる改善を図る必要がある

- ⑤ 全評価項目 27 項目のうち肯定評価が60%以上の項目数は、

教職員 27 項目 (100%) 保護者 27 項目 (100%) 生徒 20 項目 (74.1%)

・達成・取組状況：教職員・保護者は前年度と同様、非常に高い評価で、日々努力している結果が見られる。

	一昨年度	昨年度	本年度
教職員	27/27 項目 (100%)	→ 27/27 項目 (100%)	→ 27/27 項目 (100%)
保護者	27/27 項目 (100%)	→ 27/27 項目 (100%)	→ 27/27 項目 (100%)
生徒	27/27 項目 (100%)	→ 27/27 項目 (100%)	→ 20/27 項目 (74.1%)

・改善方策：今後も、肯定評価 60%以上が全ての項目で得られるよう、取組を強めていく。

⑥ 全評価項目 27 項目のうち肯定評価が否定評価を上回る項目数は、

教職員 27 項目 (100%) 保護者 27 項目 (100%) 生徒 27 項目 (100%)

・達成・取組状況：教職員・保護者・生徒の三者共前年度同様、全項目において肯定評価が否定評価を上回った。日々地道に努力していることが窺える。

	一昨年度	昨年度	本年度
教職員	27/27 項目(100%)	→ 27/27 項目(100%)	→ 27/27 項目(100%)
保護者	27/27 項目(100%)	→ 27/27 項目(100%)	→ 27/27 項目(100%)
生徒	27/27 項目(100%)	→ 27/27 項目(100%)	→ 27/27 項目(100%)

・改善方策：継続してさらに努力していく。

(2) 各項目について

【学校全体にかかわること：質問項目 1-3】

1. 「本校の教育は全般的に満足できる」

肯定－否定評価：教職員 90%－8%=82% 保護者 94%－5%=89%
生徒 80%－14%=66%

・達成・取組状況：教職員・保護者・は前年度同様の高い評価である。特に保護者の 89%（前年 87%）は依然高い数値であり、建学の精神・教育方針に基づいた日々の教育活動が理解され、適切な取組が行われていることが窺える。しかしながら、生徒については 10 ポイント減少している。

・改善方策：生徒がなお一層高い教育活動を享受できるよう、教育水準の向上に努めるとともに、学校の活性化や信頼される魅力ある学校づくりを進める。

2. 「本校は建学の精神・教育方針を日々の教育に生かしている

肯定－否定評価：教職員 87%－12%=75% 保護者 89%－5%=84% 生徒 67%－15%=52%

・達成・取組状況：三者共前年度と概ね同様の評価である。教職員・保護者に比べ生徒の評価がやや低いのは、内容が抽象的で、具体的なイメージを抱きにくいことがその理由と思われる。建学の精神・教育方針に基づいて「安心・尊敬・信頼の対象となり、信用され得る人物の育成」を目標とする教育活動、それらを実現させるために体得すべき清風南海魂を全教職員・全生徒の間で共有し、それらに向けた意識を一層醸成するようにする必要がある。

・改善方策：教職員は建学の精神・教育方針・清風南海魂を常に意識し、生徒に常日頃から折

に触れ、より具体的行動でもって周知徹底し、高い目標を生徒に浸透させるよう努める。

3.「本校は学力向上をめざして積極的に取り組んでいる」

肯定－否定評価：教職員 97%－3%=94% 保護者 94%－4%=90% 生徒 88%－9%=79%

・達成・取組状況：三者共非常に高い評価である。保護者及び生徒が現在の取組を理解し評価してくれていることが窺える。

・改善方策：難関大学・学部への進学校として、この評価結果を踏まえた改善方策について組織的・効果的に取組を進めていく。

【授業にかかわること：質問項目 4－9】

4.「本校の多くの授業は内容が充実しており、また理解できるように工夫されている」

肯定－否定評価：教職員 90%－3%=87% 保護者 82%－7%=75% 生徒 86%－10%=76%

・達成・取組状況：三者共前年度と概ね同様のかなり高い評価である。特に生徒が教職員の授業での取組を評価していることが窺える。また、保護者にもさらに高く評価されるよう、『教職員個々のチャレンジプラン（自己目標）』『全校生徒による全教科目授業アンケート』『教職員間授業見学』『教職員研修会』『保護者対象授業参観』等の一層の充実を図り、指導内容や説明・板書・発問などの指導方法についてさらに工夫を重ねる等個々のスキルアップを目指す。

・改善方策：“授業第一主義”の本校として地道で継続的な取組を進める。また、ICTの積極的な活用などによって思考力や判断力、表現力を身につけさせ、教育の質の向上を目指す。

* ICT: information and communication technology（情報通信技術）

5.「本校の先生は教科の質問にきちんと対応している」

肯定－否定評価：教職員 93%－0%=93% 保護者 82%－4%=78% 生徒 84%－5%=79%

・達成・取組状況：特に保護者の評価が高くなっている。ただ、教職員の自己評価や生徒の評価と、保護者の数値との間に少しの開きがあり、教職員は更なる自己研鑽を積んだうえで、日頃の生徒への質問を含めた対応が誠実におこなわれていることを理解してもらえよう、努力する必要がある。

・改善方策：生徒の肯定評価を高めるため、継続してさらなる伸長・改善に取り組む。

6.「本校では学習や進路に関する生徒個人面談が十分に実施されている」

肯定－否定評価：教職員 90%－4%=86% 保護者 82%－9%=73% 生徒 67%－12%=55%

・達成・取組状況：保護者の肯定評価については高い数値となっている。生徒一人ひとりに応じた指導を、『面談期間』や『生徒個人面談』で実施している教職員の熱意が伝わっているのかと思われる。

・改善方策：生徒の適性を発見し能力を引き出し、それを発揮できるようにするための工夫

を試みながら、生徒の人格的発達のための指導に継続して取り組んでいく。

7.「本校生は各自の目標をめざして学習に意欲的に取り組んでいる」

肯定－否定評価：教職員 $85\% - 11\% = 74\%$ 保護者 $83\% - 9\% = 74\%$ 生徒 $72\% - 17\% = 55\%$

・達成・取組状況：教職員と保護者は高い評価であったが、生徒は⑤判断できない（よく分からない）が増加している。

・改善方策：生徒の実態と教員の評価基準を確認し、生徒の発達段階や学力・能力に即した指導とモチベーションの維持・向上に向けて一層の取組と創意工夫に努める。

8.「本校が早朝・放課後や休暇中に行っている補習授業等は生徒の学力向上に役立っている」

肯定－否定評価：教職員 $88\% - 6\% = 82\%$ 保護者 $75\% - 6\% = 69\%$ 生徒 $66\% - 10\% = 56\%$

・達成・取組状況：肯定評価が前年度とほぼ同じで、保護者と生徒とも否定評価は昨年とほぼ変わりはないものの、肯定評価が少し減少し、その分⑤判断できない（よく分からない）が増加している。長期休暇、平日放課後と、各学年で工夫して補習・セミナーなどが行われており、生徒の学力や目的にあった補習に生徒が積極的に参加し、学力の伸長につなげてほしい。

さらに希望する生徒には、N-PREP、オンラインN-PREPの導入で平日で次年度からは高2と高3は21時までの自学自習と教科指導が可能など、個々に応じた指導の方法・計画等のさらなる効果的な取組を進める。

9.「本校の各学年の校内実力テスト・業者テストは適切に計画・実施されている」

肯定－否定評価：教職員 $79\% - 15\% = 64\%$ 保護者 $91\% - 2\% = 89\%$ 生徒 $78\% - 12\% = 66\%$

・達成・取組状況：教職員と保護者は概ね昨年と同様の評価である。中学は業者テストの回数が少ないため、⑤判断できない（よく分からない）の数値が高くなっている。

・改善方策：校内のテストは内容を吟味・検討し、業者テストは、その内容および実績と信頼度を常に検証しつつ、採用の是非および実施日程を決定する。

【進路にかかわること：質問項目10-12】

10.「本校の各学年の進路指導は生徒一人ひとりの目標達成に役立つように行われている」

肯定－否定評価：教職員 $89\% - 6\% = 83\%$ 保護者 $67\% - 11\% = 56\%$ 生徒 $64\% - 10\% = 54\%$

⑤判断できない：教職員 6% 保護者 22% 生徒 27%

肯定評価①+②（一昨年度→昨年度→本年度）：教職員 $86\% \rightarrow 81\% \rightarrow 89\%$

保護者 $65\% \rightarrow 66\% \rightarrow 67\%$ 生徒 $73\% \rightarrow 75\% \rightarrow 64\%$

否定評価③+④：教職員 $9\% \rightarrow 6\% \rightarrow 6\%$ 保護者 $12\% \rightarrow 12\% \rightarrow 11\%$

生徒 $11\% \rightarrow 10\% \rightarrow 10\%$

・達成・取組状況：3年間で見た場合、保護者・生徒の肯定評価、否定評価とも大きな変動はない。ただ、保護者・生徒の⑤判断できない（よく分からない）という数字が22%・27%と

なっており、本校としても、様々なかたちで学校の様子を発信していく必要がある。

・改善方策：社会構造や人口構成の変化とそれに伴う進路選択の多様化を踏まえ、能力・適正等の理解に必要な資料や進路情報の収集・活用を推進し、各学年において目標を適切に設定し、組織的・継続的に伸長・改善に取り組むとともに、個に応じた適宜・適切な指導の一層の充実に努める。また、保護者に対して進路情報や資料の提供を積極的に行い、生徒の進路選択や将来設計への意識を一層高めていただくよう取り組む。

11.「本校の保護者面談週間の面談内容・面談形式・日程等は適切である」

肯定－否定評価：教職員 71%－24%=47% 保護者 92%－6%=86% 生徒 63%－7%=56%

・達成・取組状況：保護者の肯定評価は昨年同様 86%と高く、土曜日など、各家庭のライフスタイルを十分に考慮することが保護者の参加を促進することに繋がると思われる。

・改善方策：保護者の生活スタイルに十分配慮して、学校・生徒に関する様々な情報を分かり易く提供するとともに、効果的な取組に向けてさらに改善を進める。

12.「本校の保護者対象授業参観週間の参観要領・授業内容・日程等は適切である」

肯定－否定評価：教職員 79%－16%=63% 保護者 79%－10%=69% 生徒 58%－7%=51%

・授業参観については、面談週間を利用して実施しており、今後も引き続き、検討・工夫していくことが大切であると思われる。

・改善方策：学校と家庭の共通理解と連携協力の推進を通じて、それぞれの教育力が高められるよう、組織的にさらなる伸長・改善に取り組む。特に保護者が教室に入りやすい環境を整える必要があると思われる。

【生徒指導にかかわること：質問項目 13－14】

13.「本校生は校則やきまりをおおむね守っている」

肯定－否定評価：教職員 70%－29%=41% 保護者 85%－9%=76% 生徒 59%－33%=26%

肯定評価①+② 一昨年度→昨年度→今年度：教職員 69%→71%→70% 保護者 87%→85%→85% 生徒 70%→77%→59%

否定評価③+④ 一昨年度→昨年度→今年度：教職員 26%→26%→29% 保護者 7%→8%→9% 生徒 24%→22%→33%

・達成・取組状況：携帯電話の持参許可やマナーについての注意をことあるたびにしているせい、生徒の否定評価が増えている。本校での「校則を守る」という点から、保護者にも SNS や整髪・服装などの基準を明確伝えて、理解してもらう必要がある。

改善方策：教職員全体として生徒の問題行動の状況を共有し、学校内だけでなく、社会の一員としての意識（公平、公正、勤労、奉仕、公共心、公德心や情報モラルなど）を身につけた生徒を育成する。また、近年急増している SNS による諸問題に関して、社会の常識、規範意識の向上に生徒各人の自覚を促して指導していくことが課題である。

14.「本校では日頃から基本的な生活習慣や社会のルール・日常生活のマナーについての指導が行われている」

肯定－否定評価：教職員 82%－16%=66% 保護者 89%－6%=83% 生徒 83%－11%=72%

・達成・取組状況：三者共前年度と同様の比較的高い評価である。特に保護者については、その信頼の厚さについても再認識できた。教職員・保護者・生徒が一体的に取り組み、努力を重ねていることが窺える。さらに一歩進め、生徒が自ら考え、自主的・自律的に行動でき、自らの言動に責任を負うことができるような指導を心がける。

・改善方策：保護者と連携協力して基本的な生活習慣を身につけさせるための工夫を試みる。

【特別活動にかかわること：質問項目 15－17】

15.「本校では校外学習・文化系行事・体育系行事などの学校行事が充実している」

肯定－否定評価：教職員 89%－7%=82% 保護者 84%－15%=69% 生徒 57%－39%=18%

(昨年度) (86%－7%=79%) (80%－19%=61%) (67%－32%=35%)

・達成・取組状況：教職員・保護者は前年を上回っているが、生徒は⑤判断できない（よく分からない）が増加している。。

5年間の評価の推移は次のとおりである。特に教職員・保護者は年々肯定評価が増加し、否定評価が減少していったのか読み取れる。生徒は否定評価が増加しているが、4年前とほぼ同様になっている。

肯定評価①+②：教職員 72%→74%→84%→86%→89% 保護者 61%→71%→76%→80%→84%
生徒 54%→58%→61%→67%→57%

否定評価③+④：教職員 22%→21%→10%→7%→7% 保護者 32%→27%→22%→19%→15%
生徒 40%→37%→34%→32%→39%

・改善方策：今後とも「文化・芸術の日」の行事を中心に、中学の合唱コンクールや中・高体育大会など、生徒の安全を最優先し、各学年の実態や生徒の発達段階に応じた諸行事の目標等の達成に向けた意識を共有し、現状を踏まえたうえで創意工夫し改善に取り組む。

16.「本校の学校行事は、保護者が参加しやすいように日程等が配慮されている」

肯定－否定評価：教職員 91%－3%=88% 保護者 92%－5%=87% 生徒 62%－19%=43%

⑤判断できない：教職員 6% 保護者 3% 生徒 19%

過去5年間の推移は次の通りである。

肯定評価①+②：教職員 62%→66%→72%→76%→91% 保護者 67%→86%→84%→89%→92%
生徒 62%→68%→70%→73%→62%

否定評価③+④：教職員 24%→27%→19%→12%→3% 保護者 17%→12%→12%→9%→5%
% 生徒 18%→14%→18%→17%→19%

・達成・取組状況：教職員や保護者の肯定評価は上昇傾向にあり、特に保護者は9割を上回るなど、保護者が対象となる行事をできるだけ土曜日に入れるなど、配慮している状況が数

字に示されている状況にある。

・改善方策：各々の行事を個別に分析・検討し、さらに一層参加していただくために組織的・継続的に工夫・改善に取り組んでいく。

17.「本校の部活動は、学習と両立しており、学校生活を充実させるためのものになっている」

肯定－否定評価：教職員 76%－19%=57% 保護者 77%－10%=67% 生徒 59%－18%=41%

過去5年間の評価の推移は次のとおりである。

肯定評価①+②：教職員 73%→74%→81%→75%→76% 保護者 71%→76%→72%→76%→77%

生徒 68%→70%→73%→78%→59%

否定評価③+④：教職員 24%→17%→12%→15%→19% 保護者 17%→16%→15%→12%→10%

生徒 18%→18%→18%→13%→18%

・達成・取組状況：定期考査・課題考査などでの成績不振者に対するクラブ参加制限の規定などからも、“部活動は学習との両立が大前提” “学習のための部活動”という本校の方針への理解が年々高まっていることが保護者や生徒の数値から読み取れる。

・改善方策：学習優先の中でのクラブ活動として、学習と相乗的効果をもたらす部活動を目指して組織的にさらなる工夫・改善に取り組む。また、「教員の働き方改革」の趣旨に鑑み、進学校としての学習指導と部活動指導の両立を目指し、特に保護者に生徒の学習状況や部活動での様子をきめ細かに伝達することが大切である。

【教育相談にかかわること：質問項目 18－19】

18.「本校の人権学習は効果的に行われている」

肯定－否定評価：教職員 69%－29%=40% 保護者 62%－5%=57% 生徒 62%－20%=42%

⑤判断できない(昨年度)：教職員 2%(10%) 保護者 33%(34%) 生徒 18%(6%)

過去2年間からの推移は次の通りである

肯定評価①+②：教職員 68%→70%→69% 保護者 62%→60%→62% 生徒 75%→76%→62%

否定評価③+④：教職員 22%→20%→29% 保護者 5%→7%→7% 生徒 14%→18%→20%

⑤判断できない(よく分からない)：教職員 10%→10%→2% 保護者 32%→34%→33%

生徒 10%→6%→18%

・達成・取組状況：肯定評価では、教職員や保護者はほぼ変わらないが、生徒が減少し、⑤判断できない（よく分からない）が増加している。人権教育を受けている生徒がその効果をじ実感しているのが十分伝わっていない可能性がある。

・改善方策：各学年の『修養行事』『人権に関する講話』『人権教育アンケート』『生活実態調査』、『人権に関する講演会』『人権に関する職員研修』等を効果的に活かし、日常生活に根付いたものとなるように指導をさらに工夫・改善する一方、保護者にもその目的や効果などを十分、情報発信していく必要があると思われる。

19.「本校生は悩み事や困ったことについて、先生に気軽に相談している」

肯定－否定評価：教職員 80%－9%=71% 保護者 67%－12%=55% 生徒 57%－23%=34%

⑤判断できない：教職員 11% 保護者 21% 生徒 20%

肯定評価①+②：教職員 82%→85%→85%→80% 保護者 64%→67%→67%

生徒 68%→73%→57%

否定評価③+④：教職員 10%→6%→11% 保護者 14%→14%→12% 生徒 20%→20%→23%

⑤判断できない(よく分からない)：教職員 8%→9%→11% 保護者 21%→21%→21%

生徒 11%→7%→20%

・達成・取組状況：教職員と保護者の肯定評価はほぼ例年通りであり、概ね良好である。生徒は肯定評価が減りその分⑤判断できない（よく分からない）が増加している。

中学校・高校の学齢期は、男女とも非常に多感な時期であり、悩みや心配事の相談相手の選別は、その内容により男女とも個々人でかなり異なる。よき相談相手として気軽に相談できる対象としての教職員を目指して常日頃から自らを改革し、生徒一人ひとりにより一層きめ細かい目配りに対応ができる、信頼される教師像を再確認し、さらに一層努力する必要性を再認識した。

・改善方策：生徒にとって必要とされる教師像を再確認し、教職員と生徒との豊かな人間関係を構築し、男性教員、女性教員のバランスのとれた配置を心掛け、子どもの人格の完成を目指して、あらゆる相談に適切に対応できるよう努力する。また、今年度は、専門職カウンセラーに週2回。生徒向けカウンセリングを行ってもらうことで、生徒の悩み事相談のニーズに対応している。

【環境美化・設備・健康管理にかかわること：質問項目 20－22】

20.「本校生は清掃活動やごみの分別など、環境美化に取り組んでいる」

肯定－否定評価：教職員 70%－27%=43% 保護者 63%－4%=59% 生徒 62%－22%=40%

⑤判断できない：教職員 3% (6%) 保護者 33%(32%) 生徒 16% (6%)

達成・取組状況：例年並みで概ね同様の評価である。環境に対する意識は社会生活において求められる基本事項であり、常に実践されるべきであると考ええる。

・改善方策：毎月1回の『大掃除』、年2回の『コミュニティ・サービス（学校周辺地域の清掃活動）』等を意識付けの特別日とし、生徒一人ひとりが“環境美化に関して自分に何ができるか”を考え、たとえばごみの分別やリサイクルの意識を高めることで、具体的取組に反映させる。

21.「本校の施設・設備はよく整備されている」

肯定－否定評価：教職員 92%－4%=88% 保護者 78%－8%=70% 生徒 71%－15%=56%

・達成・取組状況：肯定評価は前年度と同様の比較的高い結果である。学習・生活環境のさらなる充実に向けて組織的・効果的に取組を進めていく。ICT教育の導入も積極的に推進して

いく。

・改善方策：『防犯講習会』『防災訓練』『防犯教室』『交通安全教室』『犯罪被害防止教室』『非行防止教室』『薬物乱用防止・防犯教室』『地震・津波警報発令時避難訓練』『教職員救急蘇生法・AED（自動体外式除細動器）研修会』等の成果を踏まえ、施設・設備の充実はもとより、教職員・生徒の安全対応能力の向上を図る。

22.「本校では健康管理が行き届き、安全な学校生活が送れるような配慮がなされている」

肯定－否定評価：教職員 92%－3%=89% 保護者 84%－4%=80% 生徒 78%－14%=68%

・達成・取組状況：三者共前年度と同様の非常に高い評価である。生徒を対象とする保健衛生に関する態勢整備や指導・相談の実施に組織的、継続的に取り組んでいく。

・改善方策：日常の健康観察や、疾病予防、生徒の自己健康管理能力向上のための取組をさらに推進する。

【その他：質問項目 23－27】

23.「本校は保護者から学校へ気軽に相談できる雰囲気がある」

肯定－否定評価：教職員 88%－3%=85% 保護者 80%－15%=65% 生徒 51%－14%=37%

⑤判断できない：教職員 9% 保護者 5% 生徒 35%

・達成・取組状況：三者とも肯定評価に大きな変化はない。特に担任、学年、電話や窓口業務に当たる事務職員の日頃からの保護者対応を丁寧に行い、必要がある。

・改善方策：今後も保護者の意見や要望の把握・対応などを組織的・継続的、丁寧に取り組み、より良い信頼関係の構築に努める。

24.「本校では保護者への連絡や情報公開は適切に行われている」

肯定－否定評価：教職員 85%－6%=79% 保護者 88%－7%=81% 生徒 65%－12%=53%

肯定評価①+②：教職員 84%→86%→88%→85% 保護者 90%→87%→87%→88%

生徒 74%→76%→82%→65%

否定評価③+④：教職員 11%→7%→2%→6% 保護者 7%→10%→8%→7%

生徒 13%→12%→9%→12%

・達成・取組状況：三者共前年度と同様の高い評価である。保護者連絡システムの利用が定着し、敏速かつ的確に情報連絡が行われていることが保護者とのより良い信頼関係の構築に繋がっていると思われる。本校の取組をより広く周知するための工夫を組織的・効果的に進めていく。

・改善方策：学校に関する様々な情報の伝達・公開を適切に行い、共通理解を通じて、相互の連携協力の促進が図られ、学校・家庭それぞれの教育力が高められていくように、さらに一層の伸長・改善に取り組む。

25.「本校への電話や訪問の際に学校はていねいに対応している」

肯定－否定評価：教職員 89%－1%=88% 保護者 95%－2%=93% 生徒 59%－5%=54%

⑤判断できない：教職員 10% 保護者 3% 生徒 37%

・達成・取組状況：三者共前年度と概ね同様の評価で、保護者の非常に高い評価は、教職員や事務職員の適切な対応の結果であることが窺える。生徒の⑤判断できない（よく分からない）が増加しているのは、電話での対応より、ICTを使った連絡手段を多用していることも原因の一つとして考えられる。学校への要望、現状の認識、対処方法等を全職員の間で共有し、組織的に取り組む体制の整備に留意する。

・改善方策：継続してさらに伸長・改善に取り組む。

26.「本校では非常時・緊急時の生徒や保護者への連絡は迅速・的確に行われている」

肯定－否定評価：教職員 93%－2%=91% 保護者 79%－3%=76% 生徒 50%－7%=43%

・達成・取組状況：コロナ禍とは異なり、状況が落ち着いている現在、非常・緊急性のある情報発信数自体が激減していることもこの数字の要因と考えられる。しかし緊急性の連絡はいつでも発信出来るような体制を整え、また生徒・保護者も緊急連絡システムを普段から閲覧する習慣をつけることは大切である。

肯定評価①+②：教職員 90%→87%→89%→88%→93%

保護者 92%→87%→89%→82%→79%

生徒 65%→67%→72%→73%→50%

否定評価③+④：教職員 7%→1%→10%→3%→2%

保護者 5%→5%→10%→4%→3%

生徒 15%→12%→15%→9%→7%

・改善方策：常に敏速かつ正確に情報収集・分析を行い、ICT ツールを活用して、これまで以上に迅速かつ的確な連絡を心がける。今後とも、非常時・緊急時であっても状況に適切に応じた、生徒や保護者への連絡を心掛けたい。

27.「本校では非常時・緊急時の学習指導は適切に行われている」

肯定－否定評価：教職員 79%－4%=75% 保護者 59%－4%=55% 生徒 64%－11%=53%

過去の評価推移は次のとおりである。

肯定評価①+②：教職員 83%→81%→81%→74%→75%

保護者 76%→76%→68%→64%→59%

生徒 72%→76%→79%→78%→64%

否定評価③+④：教職員 6%→9%→4%→5%→4%

保護者 8%→11%→7%→5%→4%

生徒 12%→12%→9%→9%→11%

・達成・取組状況：本校では、毎年4月に地震・津波・火災避難訓練を実施している。この高

石市は浸水地域に指定されていることから、なお一層の緊張感を持って訓練を実施し、非常事態に備えなくてはならない。

4. 学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員会を開催し、自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方策、次年度の重点目標や評価項目等の在り方等についての評価を行った。また、学校の現状について委員と学校の相互の共通理解を深めるための意見交換を行った。

上に掲げた事項以外の意見・提言

- ・学校評価に関する取り組みは 2008 年度から実施されているが、今年度の学校評価の結果により、懸命に教育活動に励んでいる学校の姿が明確に見て取ることができ、いくつかの項目での保護者の肯定評価の増加はそのことを反映していると思われ、学校の日々の教育活動の充実を確信させるものである。
- ・学校に対する保護者の関心が高まり、教職員の「働き方改革」が声高に叫ばれる昨今、学校の現状、生徒の現状に関して保護者との共通理解を持つことにより、相互の連携協力の促進を図り、学校・家庭それぞれの教育力が高められることを期待し、知と心の教育で生徒の人格の完成を目指し、価値観の多様化するグローバル社会において、世界を牽引する人材の育成に向けて、一層充実した教育活動を進めることが重要である。
- ・各教職員においては、この学校評価結果の生徒・保護者の声を真摯に受け止め、生徒がより良い教育活動を享受できるよう、建学の精神と教育方針に基づき一層の研鑽を積むことが大切である。
- ・本校は 2015 年に文部科学省よりスーパーグローバルスクール（SGH）指定校に選ばれ、2020 年度からは、新たに「グローバル探究ゼミ」を高等学校の「学校教科」として設定し、より一層充実したグローバル教育を行ってきた。この貴重な経験とノウハウを糧として、さらに飛躍し、建学の精神及び教育方針に基づいた教育活動を充実したものにしていきたい。

本校としては、今後も学校評価を教育水準の向上と保証を図るためのツールとして活用し、生徒・保護者の満足度の高い学校づくりに邁進し、その負託に応えていく所存です。

5. 自己評価及び学校関係者評価の結果の公表、報告書の設置者への提出

自己評価及び学校関係者評価の結果について、本校ホームページに掲載し公表した。また、それらを取りまとめた報告書を設置者に提出した。

※この報告書は、自己評価の結果と学校関係者評価の結果を併せてとりまとめ、作成した。

以上

2025(令和7)年度 学校生活評価(生徒対象) アンケート

2025年11月

清風南海中学校・高等学校

校長 平岡 正

本校では建学の精神・教育方針に基づいて「社会から必要とされる学校づくり」「安心・尊敬・信頼の対象となり、信用され得る人物の育成」を目標に日々教育活動を行っています。この調査は、生徒の皆さんの学校生活をより充実したものにし、学校をさらによくしていくための資料を得るために実施するものです。あとの質問について、生徒の皆さんが平素どのように感じているか、率直に回答してください。ご協力をお願いします。

- ①よくあてはまる ②ややあてはまる
③あまりあてはまらない ④全くあてはまらない
⑤判断できない(よく分からない)

集計結果

番号	質 問 項 目	①	②	③	④	⑤
1	わたしにとって本校での学園生活は全般的に満足できる。	25	55	12	3	5
2	本校は建学の精神・教育方針を日々の活動に生かしている。	16	51	15	4	14
3	本校は学力向上をめざして積極的に取り組んでいる。	33	55	6	3	4
4	本校の多くの授業は内容が充実しており、また理解できるように工夫されている。	27	60	8	1	4
5	本校の先生は教科の質問にきちんと対応してくれている。	39	45	3	1	11
6	本校では学習や進路に関する生徒個人面談が十分に実施されている。	23	44	10	2	21
7	本校生は各自の目標をめざして学習に意欲的に取り組んでいる。	18	54	14	3	12
8	本校が早朝・放課後や休月中に行っている補習授業等は生徒の学力向上に役立っている。	23	43	8	2	24
9	本校の各学年の校内実力テスト・業者テストは適切に計画・実施されている。	30	48	9	3	10
10	本校の各学年の進路指導は生徒一人ひとりの目標達成に役立つように行われている。	19	45	7	3	27
11	本校の保護者面談週間の面談内容・面談形式・日程等は適切である。	25	39	5	2	30
12	本校の保護者対象授業参観週間の参観要領・授業内容・日程等は適切である。	22	36	5	2	35
13	本校生は校則やきまりをおおむね守っている。	15	44	25	8	8
14	本校では日頃から基本的生活習慣や社会のルール・日常生活のマナーについての指導が行われている。	33	51	9	2	6
15	本校では校外学習・文化系行事・体育系行事などの学校行事が充実している。	17	40	26	13	4
16	本校の学校行事は、生徒や保護者が参加しやすいように日程等が配慮されている。	18	44	13	6	19
17	本校の部活動は、学習と両立しており、学校生活を充実させるためのものになっている。	19	40	12	6	23
18	本校の人権学習は効果的に行われている。	18	44	15	5	18
19	本校生は悩み事や困ったことについて、先生に気軽に相談することができる。	17	40	18	5	20
20	本校生は清掃活動やゴミの分別など、環境美化に取り組んでいる。	17	45	15	6	16
21	本校の施設・設備・ICT環境はよく整備・活用されている。	23	49	11	4	14
22	本校では健康管理が行き届き、安全な学校生活が送れるような配慮がなされている。	27	51	8	2	12
23	本校は保護者から学校へ気軽に相談できる雰囲気がある。	15	36	12	3	35
24	本校では日頃の生徒や保護者への連絡や情報公開は適切に行われている。	22	43	9	3	22
25	本校への電話や訪問の際に学校はていねいに対応している。	23	36	3	2	37
26	本校では非常時・緊急時の生徒や保護者への連絡は迅速・的確に行われている。	18	32	5	2	42
27	本校では非常時・緊急時の学習指導は適切に行われている。	21	43	8	3	25

2025(令和7)年度 学校評価 自己評価(教職員対象) アンケート

2025年11月

清風南海中学校・高等学校

校長 平岡 正

2007年(平成19年)年6月に「学校教育法」、同年10月に「学校教育法施行規則」の改正により、自己評価及び学校関係者評価の規定が設けられ、2008年(平成20年)年1月、文部科学省より「学校評価ガイドライン[改訂]」が作成されました。さらに、2010年(平成22年)7月20日に、学校の第三者評価の在り方に関する記述を充実し、「学校評価ガイドライン[平成22年改訂]」に改訂されました。

さて、本校では建学の精神・教育方針に基づいて「社会から必要とされる学校づくり」「安心・尊敬・信頼の対象となり、信用され得る人物の育成」を目標に日々教育活動を行っています。この調査は、その教育活動等の成果を検証し、改善を行うことにより、生徒がより良い教育活動等を享受できるよう学校運営の発展を目指し、教育の水準の向上を図るために実施するものです。

つきましては、あとの質問について、先生方が平素どのように感じておられるか、ご回答いただければと思います。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

- ①よくあてはまる ②ややあてはまる
③あまりあてはまらない ④全くあてはまらない
⑤判断できない(よく分からない)

集計結果

番号	質 問 項 目	①	②	③	④	⑤	%
1	教職員からみて、本校生は本校の教育は全般的に満足できていると思っている。	31	58	8	0		
2	本校は建学の精神・教育方針を日々の教育に生かしている。	36	51	12	0		
3	本校は学力向上をめざして積極的に取り組んでいる。	57	39	3			
4	本校の多くの授業は内容が充実しており、また理解できるように工夫されている。	51	39	3	7		
5	本校の先生は教科の質問にきちんと対応している。	73	20	0	7		
6	本校では学習や進路に関する生徒個人面談が十分に実施されている。	43	47	4	6		
7	本校生は各自の目標をめざして学習に意欲的に取り組んでいる。	25	61	11	0		
8	本校が早朝・放課後や休校中に行っている補習授業等は生徒の学力向上に役立っている。	44	44	6	7		
9	本校の各学年の校内実力テスト・業者テストは適切に計画・実施されている。	40	38	10	4	7	
10	本校の各学年の進路指導は生徒一人ひとりの目標達成に役立つように行われている。	40	48	4	1	6	
11	本校の保護者面談週間の面談内容・面談形式・日程等は適切である。	30	40	16	8	6	
12	本校の保護者対象授業参観週間の参観要領・授業内容・日程等は適切である。	34	45	12	3	6	
13	本校生は校則やきまりをおおむね守っている。	15	55	28	1		
14	本校では日頃から基本的な生活習慣や社会のルール・日常生活のマナーについての指導が行われている。	35	47	15	1		
15	本校では校外学習・文化系行事・体育系行事などの学校行事が充実している。	42	47	6	1	4	
16	本校の学校行事は、保護者が参加しやすいように日程等が配慮されている。	45	46	3	0	6	
17	本校の部活動は、学習と両立しており、学校生活を充実させるためのものになっている。	30	46	16	3	4	
18	本校の人権学習は効果的に行われている。	24	45	24	6	2	
19	本校生は悩み事や困ったことについて、先生に気軽に相談している。	26	54	9	0	11	
20	本校生は清掃活動やゴミの分別など、環境美化に取り組んでいる。	16	54	24	3		
21	本校の施設・設備・ICT環境はよく整備・活用されている。	42	51	3			
22	本校では健康管理が行き届き、安全な学校生活が送れるような配慮がなされている。	46	46	3			
23	本校は保護者から学校へ気軽に相談できる雰囲気がある。	38	49	3	0	9	
24	本校では日頃の生徒や保護者への連絡や情報公開は適切に行われている。	38	47	6	0	9	
25	本校への電話や訪問の際に学校はていねいに対応している。	63	26	1		10	
26	本校では非常時・緊急時の生徒や保護者への連絡は迅速・的確に行われている。	53	40	2		4	
27	本校では非常時・緊急時の学習指導は適切に行われている。	35	44	4	0	17	

2025(令和7)年度 学校評価 学校関係者評価(保護者対象) アンケート

2025年11月

清風南海中学校・高等学校

校長 平岡 正

平素から本校教育の推進につきましては、ご理解とご協力をいただき感謝いたしております。

さて、本校では建学の精神・教育方針に基づいて「社会から必要とされる学校づくり」「安心・尊敬・信頼の対象となり、信用され得る人物の育成」を目標に日々教育活動を行っております。その教育内容を点検し、より充実したものにしていくため自己評価に努めるとともに、保護者の皆様からも評価を受けるため、学校評価アンケートを実施いたしたいと思います。

つきましては、あとの質問について、保護者の皆様が平素どのように感じておられるか、ご回答いただければと思います。本校の教育活動・環境を一層よくしていくため、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

- ①よくあてはまる ②ややあてはまる
③あまりあてはまらない ④全くあてはまらない
⑤判断できない(よく分からない)

集計結果

番号	質 問 項 目	①	②	③	④	⑤
1	保護者にとって本校の教育は全般的に満足できる。	46	48	4	2	
2	本校は建学の精神・教育方針を日々の教育に生かしている。	44	45	5	6	
3	本校は学力向上をめざして積極的に取り組んでいる。	58	36	3	2	
4	本校の多くの授業は内容が充実しており、また理解できるように工夫されている。	38	45	6	11	
5	本校の先生は教科の質問にきちんと対応してくれている。	49	34	3	14	
6	本校では学習や進路に関する生徒個人面談が十分に実施されている。	44	39	8	8	
7	本校生は各自の目標をめざして学習に意欲的に取り組んでいる。	39	43	8	8	
8	本校が早朝・放課後や休月中に行っている補習授業等は生徒の学力向上に役立っている。	41	34	5	19	
9	本校の各学年の校内実力テスト・業者テストは適切に計画・実施されている。	55	36	2	6	
10	本校の各学年の進路指導は生徒一人ひとりの目標達成に役立つように行われている。	31	36	9	22	
11	本校の保護者面談週間の面談内容・面談形式・日程等は適切である。	55	37	5	2	
12	本校の保護者対象授業参観週間の参観要領・授業内容・日程等は適切である。	44	36	9	11	
13	本校生は校則やきまりをおおむね守っている。	37	48	8	16	
14	本校では日頃から基本的生活習慣や社会のルール・日常生活のマナーについての指導が行われている。	51	37	5	6	
15	本校では校外学習・文化系行事・体育系行事などの学校行事が充実している。	40	43	13	2	
16	本校の学校行事は、保護者の皆さんが参加しやすいように日程等が配慮されている。	51	42	5	2	
17	本校の部活動は、学習と両立しており、学校生活を充実させるためのものになっている。	39	38	8	2	13
18	本校の人権学習は効果的に行われている。	29	33	4	33	
19	本校生は悩み事や困ったことについて、先生に気軽に相談することができる。	29	38	11	2	21
20	本校生は清掃活動やゴミの分別など、環境美化に取り組んでいる。	30	33	4	33	
21	本校の施設・設備・ICT環境はよく整備・活用されている。	40	38	7	14	
22	本校では健康管理が行き届き、安全な学校生活が送れるような配慮がなされている。	42	42	4	12	
23	本校は保護者から学校へ気軽に相談できる雰囲気がある。	36	44	13	25	
24	本校では日頃の生徒や保護者への連絡や情報公開は適切に行われている。	48	40	6	15	
25	本校への電話や訪問の際に学校はていねいに対応している。	68	27	2	3	
26	本校では非常時・緊急時の生徒や保護者への連絡は迅速・的確に行われている。	50	29	3	18	
27	本校では非常時・緊急時の学習指導は適切に行われている。	35	24	3	37	

2025(令和7)年度 清風南海中学校・高等学校 学校評価(図表版)

1 めざす学校像

- ・「安心」「尊敬」「信頼」の対象となり信用される人物の育成
- ・社会から必要とされる学校

2 中・長期的目標

- (1) 生徒指導の充実
 - ア.基本的生活習慣を確立し正しい身嗜みを励行するようさらなる指導を行う。
 - イ.相手の話をよく聴き、礼儀正しく、他者を思い遣る心を育てる。
- (2) 学習指導の充実
 - 授業の質を高め、そのことにより生徒の満足度を高める。
- (3) 進路指導の充実
 - 生徒一人ひとりの目標達成に役立つ、きめ細やかな進路指導を行う。
- (4) 信頼され魅力あふれる学校づくり
 - 地域、保護者、生徒、教員など誰からも信頼され、魅力あふれる学校づくりを行う。
- (5) グローバル時代の人材の育成
 - 地球規模の広い視野を持ち、課題解決に果敢に挑戦するグローバル人材の育成に取り組む。

3 本年度の取組みと達成状況

目 標	重 点 目 標	今年度の取組計画・内容	評 価 指 導	自 己 評 価	次年度に向けての改善 策
(1) 生 徒 指 導 の 充 実	・基本的生活習慣を確立し正しい身嗜みを励行し、自身自身のマナーに気を配り、心身を鍛えるようさらなる指導を行う。 ・相手の話をよく聴き、礼儀正しく、相手の立場になって物事を考え、他者を思いやる心を育てる	・毎日の朝礼等を通じて、服装・整髪など目に見えるものだけでなく、ルールブックにないルール、社会の常識としてのルール等、規範意識の向上に生徒各人の自覚を促していく。 ・部活動を学習と両立した学校生活の充実に資するものとする。 ・他者を思いやる心を育てる。 ・生徒等のよき相談相手として気楽に相談できる教師をめざす。	「校則やきまりをおおむね守っている。」(アンケート13) 「日頃から基本的生活習慣や社会のルール・日常生活のマナーについての指導が行われている」(アンケート14) 「部活動は、学習と両立しており、学校生活を充実させるためのものになっている」(アンケート17) 「人権学習は効果的に行われている」(アンケート18) 「生徒は悩み事や困ったことについて、先生に気楽に相談している」(アンケート19)	肯定： 教職員 70% 保護者 85% 生 徒 59% 肯定： 教職員 82% 保護者 89% 生 徒 83% 肯定： 教職員 76% 保護者 77% 生 徒 59% 肯定： 教職員 69% 保護者 62% 生 徒 62% 肯定： 教職員 80% 保護者 67% 生 徒 57% ※肯定評価が高く、成果がうかがえる。	教職員全体として生徒の問題行動の状況を共有するとともに、毎日の朝礼等を通じて、学校内だけでなく、社会の一員としての意識（公平、公正、勤労、奉仕、公共心、公德心や情報モラルなど）を身につけるよう指導をさらに徹底する。 ※肯定評価が60%であることを評価基準として、肯定評価60%以上の項目は継続して取り組みを進め、60%未満の項目については、改善・改革に向けての検討課題とする。

(2) 学 習 指 導 の 充 実	- 授業の質を高め、そのことにより生徒の満足度を高める。 - 論理的に物事を考え、自分で解決する力を養う指導を強化する。	『教職員個々のチャレンジプラン（自己目標）』『全校生徒による全教科目授業アンケート』『教職員間授業見学』『教職員研修会』『保護者対象授業参観』等の一層の充実を図り、指導内容や説明・板書・発問などの指導方法についてさらに工夫を重ねる。 - 生徒の実態を踏まえた個に応じた指導を、『面談期間』はもとより、年間を通じた『生徒個人面談』で、積極的・継続的に実施している。	「学力向上をめざして積極的に取り組んでいる」(アンケート3) 「多くの授業は内容が充実しており、また理解できるように工夫されている」(アンケート4) 「各自の目標をめざして学習に意欲的に取り組んでいる」(アンケート7) 「早朝・放課後や休月中に行っている補習授業等は生徒の学力向上に役立っている」(アンケート8) 「本校の先生は教科の質問にきちんと対応している」(アンケート5) 「学習や進路に関する生徒個人面談が十分に実施されている」(アンケート6)	肯定： 教職員 97% 保護者 94% 生 徒 88% 肯定： 教職員 90% 保護者 82% 生 徒 86% 肯定： 教職員 85% 保護者 83% 生 徒 72% 肯定： 教職員 88% 保護者 75% 生 徒 66% 肯定： 教職員 93% 保護者 82% 生 徒 84% 肯定： 教職員 90% 保護者 82% 生 徒 67% ※肯定評価が教師・保護者・生徒ともに高く、成果がでていることがうかがえる。継続してさらなる伸長に取り組む。	“授業第一主義”の本校として地道で継続的な取組を進める。また、ICT の積極的な活用などによる協働型・双方向型の授業革新を推進し、教育の質の向上を目指す。 ICT: Information and Communication Technology「情報通信技術」
(3) 進 路 指 導 の 充 実	生徒一人ひとりの目標達成に役立つ、きめ細やかな進路指導を行う。	各学年において目標を適切に設定し、組織的・継続的に伸長・改善に取り組む	「学習や進路に関する生徒個人面談が十分に実施されている」(アンケート6) 「各学年の校内実力テスト・業者テストは適切に計画・実施されている」(アンケート9) 「各学年の進路指導は生徒一人ひとりの目標達成に役立つように行われている」(アンケート10) 「保護者面談週間の面談内容・面談形式・日程等は適切である」(アンケート11) 「保護者対象授業参観週間の参観要領・授業内容・日程等は適切である」(アンケート12)	肯定： 教職員 90% 保護者 82% 生 徒 67% 肯定： 教職員 79% 保護者 91% 生 徒 78% 肯定： 教職員 89% 保護者 67% 生 徒 64% 肯定： 教職員 71% 保護者 92% 生 徒 63% 肯定： 教職員 79% 保護者 79% 生 徒 58% ※肯定評価は 60～80%台であり、継続してさらなる伸長に取り組む。	各学年において、生徒の発達段階を踏まえつつ能力・適正等の理解に必要な資料や、進路情報についての収集・活用に一層の充実を図っていく。また、個に応じた適宜・適切な指導に取り組む。

(4) 信 頼 さ れ 魅 力 あ ふ れ る 学 校 づ く り	・地域、保護者、生徒、教員など誰からも信頼される、魅力あふれる学校づくりを行う。	・建学の精神・教育方針・清風南海魂を常に意識し、生徒に常日頃から折に触れ周知徹底し、生徒に浸透させるよう努める ・安全安心で快適な学習・生活環境のさらなる充実に向けて取り組む。	「本校の教育は全般的に満足できる」(アンケート1) 「本校建学の精神・教育方針を日々の教育に生かしている」(アンケート2) 「校外学習・文化系行事・体育系行事などの学校行事が充実している」(アンケート15) 「本校の学校行事は保護者が参加しやすいように日程等が配慮されている」(アンケート16) 「本校は清掃活動やゴミの分別など環境美化に取り組んでいる」(アンケート20) 「施設・設備はよく整備されている」(アンケート21) 「健康管理が行き届き、安全な学校生活が送れるような配慮がなされている」(アンケート22) 「保護者から学校へ気軽に相談できる雰囲気がある」(アンケート23) 「保護者への連絡や情報公開は適切に行われている」(アンケート24) 「電話や訪問の際に学校はていねいに対応している」(アンケート25) 「非常時・緊急時の生徒や保護者への連絡は迅速・的確に行われている」(アンケート26) 「非常時・緊急時の学習指導は適切に行われている」(アンケート27)	肯定： 教職員 90% 保護者 94% 生 徒 80% 肯定： 教職員 87% 保護者 89% 生 徒 67% 肯定： 教職員 89% 保護者 84% 生 徒 57% 肯定： 教職員 91% 保護者 92% 生 徒 62% 肯定： 教職員 70% 保護者 63% 生 徒 62% 肯定： 教職員 92% 保護者 78% 生 徒 71% 肯定： 教職員 92% 保護者 84% 生 徒 78% 肯定： 教職員 88% 保護者 80% 生 徒 51% 肯定： 教職員 85% 保護者 88% 生 徒 65% 肯定： 教職員 89% 保護者 95% 生 徒 59% 肯定： 教職員 93% 保護者 79% 生 徒 50% 肯定： 教職員 79% 保護者 59% 生 徒 64% ※いずれの項目も保護者からは高い支持が得られている。継続してさらなる伸長に取り組む。	『防災講習会』『防災訓練』『防犯教室』『交通安全教室』『犯罪被害防止教室』『非行防止教室』『薬物乱用防止・防犯教室』『地震・津波警報発令時避難訓練』『コミュニティサービス』『教職員救急蘇生法・AED（自動体外式除細動器）研修会』等の成果を踏まえ、施設・設備の充実はもとより、教職員・生徒の安全対応能力の向上を図る。 非常時・緊急時の学習指導に即座に対応できるよう、教材の準備・開発を推進する。
(5) グ ロ ー バ ル 人 材 の 育 成	・地球規模の広い視野を持ち、課題解決に果敢に挑戦するグローバル人材の育成に取り組む。	・情報社会への適切な対応の仕方を身につける指導に取り組む。 ・建学の精神にもとづき、人種、言語、文化の異なる多様な環境における真のグローバルリーダーたりうる人材を育成するための学びと人格形成を図る。	グローバルコースの設置。 Super Global High School 指定。 グローバル探究ゼミの設置。 「本校は建学の精神・教育方針を日々の教育に生かしている」(アンケート2) 「本校では人権教育が効果的に行われている」(アンケート18) 「本校の施設・設備はよく整備されている」(アンケート21)	2015.4.1～2022.3.31 文部科学省から指定。 肯定： 教職員 87% 保護者 89% 生 徒 67% 肯定： 教職員 69% 保護者 62% 生 徒 62% 肯定： 教職員 92% 保護者 78% 生 徒 71% ※いずれの項目も高い評価が得られている。継続してさらなる伸長に取り組む。	グローバル教育およびグローバル探究ゼミのさらなる充実を図る。 多様な価値観を持った生徒たちのグループでの探究活動を通じて、人を束ねることのできる人材育成の充実を図る。 全 HR 教室への電子黒板の設置、Google や、みらいスクールを用いた ICT 教育の充実、中・高全学年へのタブレット配付により、施設・設備の充実はもとより、内容面の向上情報ツールの活用指導を図る。